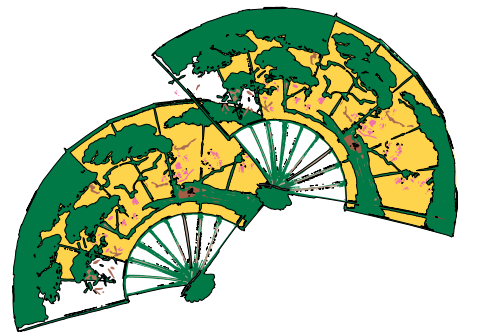
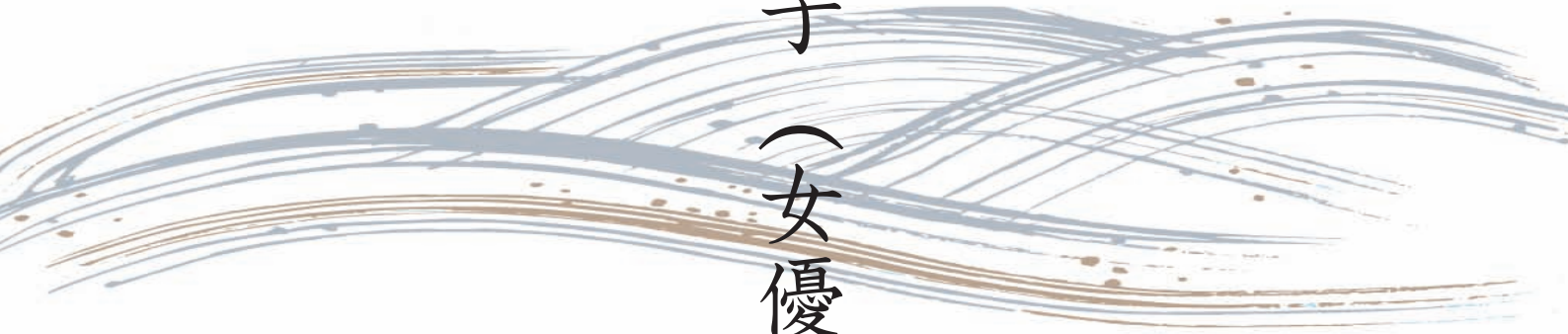


杉  
葉子  
(女優)



## 文化でつなぐ世界のわ

杉 葉 子

私はロサンゼルスで20年以上、日本文化や日本の年中行事を内外の方々にご紹介して参りました。今回、文化交流使のお役目をいただき、数ある誇るべき日本文化の中でも、女優として私が育った“黄金時代の日本映画(1940~60)”のご紹介を中心にプロジェクトを組みました。文化交流使の在任中には、トーク・ショー、スピーチコンテスト、懇親会他いろいろな催しに参加致しましたが、私自身が企画実行した三つの主な事業を、ご報告致します。

### “時空を超えた永遠のシネマ”展 展示会及びレセプション (8月13日~28日)

於：日米文化会館ギャラリー・日本庭園

ロサンゼルスのリトル・東京で毎夏開かれる“二世ウイーク(日本祭り)”はパレード、盆踊り、茶道、華道、書道、盆栽、人形、剣道、相撲、日本のたべものの屋台といった具合に、日本文化何でもありで三週間ほど何万人の人出で賑わいます。その中心地、日米文化会館のノース・ギャラリーで映画の展示会を致しました。

日本映画の黄金時代には、黒沢、小津、溝口、成瀬、今井、市川、小林の巨匠方が数々の傑作を世に送り出されました。丁度私が、映画に出ていた時期で、何人かの監督、いくつかの作品に出演させていただいた輝かし時代でした。これらの名画のポスター、スチール、古い書き込みのある台本、雑誌、スナップ写真、ちらし、ディレクター・チェア、カチンコ、メガホンなど当時の貴重な品や、思い出の品々を集めて展示致しました。



期間中は、私も会場に詰めていましたが、そこで各国の方々とお話する貴重な体験を致しました。現在ハリウッドで、映画に携わっている人、親子二代に亘り映画ポスターを描いている人、日本映画通の人等々、お相手はアメリカ人だけではありませんでした。お父上が、活動屋と言われていたころの名カメラマンだったという日本の年配のご婦人が見え、お父上のお葬式の時、当時のスターが続々参列して下さったお話や、また故三浦光子さんがロスアンゼルスに残した遺品を持っていらして、私に預けて行かれた方もありました。また、日本語を教えてと会場に日参し、家にまで電話を下された可愛いお嬢さんもいました。会場でのアンケートに寄せられた数々のお言葉には、心温まる想いがいたしました。

8月21日、日米会館の日本庭園でのレセプションに百人ほどの方をお招きしました。野本総領事をご挨拶下さり、酒樽割り、国際交流基金、日米会館、日米協会の代表の方々があがり、参加者みんなで乾杯。文化の交流が世界をつなぐ平和の絆となるようにとの願いを話し合いました。その後、川本旭鶴師の琵琶で平家物語が演じられ、英語での解説つきで月光のもと、弓の儀式が行わ

れ、遠い国の昔の幽玄の世界にみなさん夢心地になられたようでした。お寿司をはじめ日本料理のビュッフェでは、日米は勿論、フランス、ドイツ、イギリスの文化団体代表者、映画関係者が語り合う楽しい夕べとなりました。



### 映画“怪談”上映会（10月8日）

於：P.F.A.劇場

（サンフランシスコの近郊の学園都市パークレー校の劇場）

ヒッピーの発生の地であり、異文化にも知的な包容力のあるこの土地の博物館では、丁度“TAISHŌ CHIC”と銘うった大正時代の展示会が行われており日本文化に関心を寄せる人達で賑わっていました。今から約40年前の65年当時ドイツに住んでいた私は、“怪談”の試写会を見にローマへ飛び、胸に熱くこみ上げる思いをしたことがあります。

これはただのゴースト・ストーリーではなく、国際的視野で幽玄の日本の美しさを描いていると感銘を受けたのです。その映画を今回ここアメリカでご覧頂けたことも、アンケートによる反応も、ほんとうに嬉しいことでした。いつもはあまり日本文化には関心をお示しにならない日米協会会長シーゲル御夫妻が参加され「ラフカディオ・ハーン、小泉八雲の描いたこの世界こそ、我々が意図している最も知的で文化的な合流の傑作である。」とお褒めの言葉を頂き、上映会後のパーティーでは話しがはずみました。「日本映画大好き、日本語習ってます。」と百年の知己のように語りかけて来る年配のご夫人。若者は、「今、マーシャル・アーツを習ってる。今度はサムライものでね！」とか。パークレー校の学位を持ちながら、未だに昔のヒッピーのままのような小父さんからは、日本文化への鋭い質問を受けてタジタジとなり、私自身が、もっと日本のことを知らねばならないと反省したりいたしました。参加者の方々と胸襟を開いて語り合い、楽しい一時を過ごしました。

口先の理論や、説得より映像による訴えの方が、より人の心に届くし、時にはより深く伝えることも出来るのではないのでしょうか。映画、映像の世界は、百年千年の時間の隔たりも、地理的なへだたりも飛び越えて、自分が今その場にいる様に感じさせてくれます。映画は時を超え空間を超え人の心に直接的に訴えられると信じております。



## ジャパニーズ・カルチャー・ランチョン(New Neighbors Club) 9月19日

於：マサコ ポーダー邸

私の住んでいるパロスヴァルデスは、ロスアンゼルスダウンタウンより車で小一時間ほど南、小高い丘の上、眼下に海が見えるところです。通勤に不便なのでリタイアした方が多いのですが、ニュー・ネイバー・クラブと言う、この土地に移り住んだ方達のサポートをするグループがあります。アメリカ人が中心のグループですが、各国のご婦人も会員に加わり私もその一員です。日本の奥様方も近年頼りに増え続け、今や三分の一ぐらいを占めるほどになっています。テニス、ブリッジ、ジョギング、ゴルフ、見学ツアー、映画鑑賞、食べ歩き、お茶会といろいろのアクティビティーがあり、社会貢献の為の運動も盛んです。そこで私はそのグループの会員を中心に、ジャパニーズ・カルチャー・ランチョンを、企画致しました。日本人の奥様方の協力でお寿司、しゃぶしゃぶ、お茶のデモンストレーション、日本式のご接待で会員の方達をお昼食にお招き致しました。

会場となったアメリカ人と結婚した日本人マサ子さんのお宅は、壁に美しい打ち掛けが飾られ、掛軸、箆笥、屏風が部屋のあちこちに配置され、日本式生花が飾られて、ベッドカバーまでが日本調に調えられ、まるで日本のミュージアムみたいなお宅です。

その日は集まったみんなで手分けして、しゃぶしゃぶコーナー、お寿司のコーナーを設け、それぞれに通訳の達者な方がつき、英語のレシピも用意しました。普段は、「大人しい恥ずかしがりやの日本人」のイメージを覆し、みんな大奮闘して下さったので、アメリカの方達もびっくりしました。そして三味線の奏者の方には演奏の他、邦楽すべてに関して英語での説明もお願いしました。そして私の文化交流使就任を、お目出度い「鶴亀」で寿いで下さったのには、恐縮してしまいました。

アメリカ、ドイツ、イギリスの会員の他、だんだんあまり参加されない中南米、中近東、中国のご婦人も感銘をうけられ、日本まで行かなくても本物の日本が味わえたと喜ばれ、後々までもたくさんの方々からお礼を言われました。近所づきあいの延長という気軽さでプランを立て、日本の方々の同意と、New Neighbors Clubのアメリカ会長に納得していただいた上で始めたものですが、みなさんどんどんアイデアを出して下さって大いに盛り上がり、当初参加者は10数人のつもりが、50人以上の参加となって、椅子やスリッパ足りる？という嬉しい心配となりました。

前述した二つの大きな事業に較べれば、このプロジェクトは、スケールは小さいものでしたけれど、スーパー・マーケットの何処でこの食材買えるの？とか、料理道具の選び方は？とか、主人にも食べさせたいとか、生活に根付いた友達としての輪が大きく広がったような気がしました。この様な、草の根の文化交流こそ平和な世界をつなぐ第一歩の輪=和、となることを信じ、その「わ」が大きく無限に広がって行くことを心から願っております。

